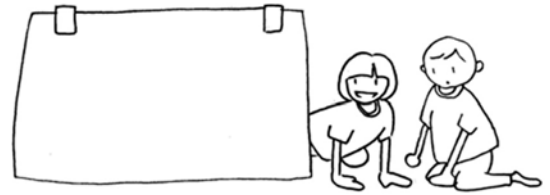


だ み よ く り に

No.728 令和4年8月1日発行

想いは受け継がれて 園長 和田美佳



暑い日が続いていますが、皆さま体調変わりなくお過ごしでしょうか。どうか体調に気をつけてお過ごしください。

新型コロナウイルス感染症が急増し、満足に出かけることもできない日常の中で、わくわくしたり、ほっこりするような心躍ることをを見つけることはなかなか難しいですね。心が躍ることは心と体の元気を保つのに必要な栄養分です。みなさんは最近、心躍るような出来事はありましたか。

わたしは、雨の日の帰宅時、電車で高齢の女性の隣に座りました。その方は、扉寄りの端の席。わたしが席に座ったとき、声をかけられました。「席代わりましょうか。傘をかけられるでしょう」と。きっとわたしが傘を持っているのを見て、端の柱にかけられると思ってくださったのだと思います。その方の言葉づかい。優しい口調。見ず知らずの他者に対しての思いやり。他者への想像力……。心がほっこりしました。自分より高齢の方に気を遣わせてしまったことに申し訳なくも感じましたが、学ぶものがたくさんありました。「亀の甲より年の功」と言いますが、その通り。歳を重ねた方への尊敬の念を抱かずにいられません。

歳を歴史に言い換えてもいいかもしれません。みくに学園も今年で68年を迎えました。これまでの園

長先生を中心に築き上げられてきたみくに学園。常に「子どものため」という考えが受け継がれています。「どぶさらいからピアノまで」というのは初代園長先生の言葉です。そんな心持ちでいます。

「常に子どものため」。そんな保育現場で、今は新型コロナウイルス感染症、夏場は熱中症、そして園舎建替えに伴う工事を含めて、子どもたちの身を守らなくてはなりません。保育現場にとって、厳しい状況です。特に、感染症や夏の気温上昇については、数年前には予想もつかなかった状況です。子どもたちを守るのは当然で、それを真っ当するのが大変な最中を、今、歩んでいる気がします。そのため、その時その時の感染状況や、工事の進捗状況に合わせて物事を判断し、送迎方法などを変更せざるを得ません。そして送迎時、今は保護者の方の代わりに職員がお子さまと身支度をしてしておりますが、お待たせして申し訳ありません。都度の判断は「子どもたちのため」であってのことだにご理解いただければ幸いです。日頃からのご理解とご協力に、深く感謝しております。

これまでみくに学園が築かれた重み、そしてこれまでの園長先生たちの想いを忘れることなく、背筋を伸ばしながら、一日一日を過ごしてまいります。暑さが続きます。ご自愛ください。そして、みなさんが揃う9月を楽しみにしています。